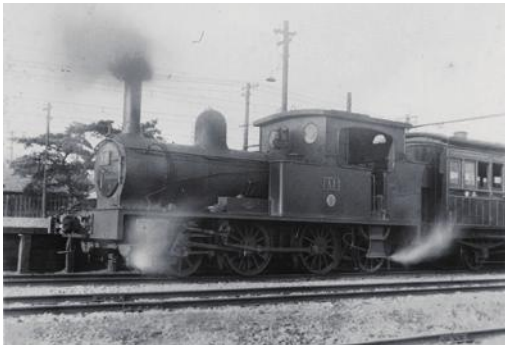


武蔵野 ヒストリー

武蔵野にまつわる歴史を
楽しみながら学ぶ

西武鉄道 多摩川線

武蔵境駅を起点とする
西武鉄道多摩川線は、
今年開業100周年を迎えました。
その歴史は多摩川の砂利の運搬に始まり、
沿線の開発とともに
旅客鉄道として進展していきました。



多摩鉄道の1号機関車であるA1形A1。開業当初から昭和31（1956）年まで長く活躍した。（昭和14（1939）年3月21日 撮影：萩原二郎／『写真で見る西武鉄道100年』株式会社ネコ・パブリッシング刊より）

武蔵境駅を起点とした8キロメートルの線路を走る西武鉄道多摩川線。武蔵境、新小金井、多磨、白糸台、競艇場前、是政のわずか六つの駅を約20分ですぐ電車は、短い鉄道ながら、地域の足としてなくてはならない路線です。また、100周年記念グッズが発売当日に完売するなど、鉄道ファンにとっても目の離せない存在。西武鉄道の中で唯一、西武線のどこの駅とも接していない「孤高の鉄道」の歴史をひもといてみましょう。

砂利を運ぶ目的で敷設された 多摩鉄道がその前身

西武鉄道多摩川線の前身は多摩鉄道。明治43（1910）年の設立で、大正6（1917）年に境（現在の武蔵境）駅〜北多磨（現在の白糸台）駅の営業を開始しました。営業の目的は人を運ぶことではなく、多摩川で採取された砂利の運搬です。当時は東京が都市として急成長する時期にあたり、ビルや住宅などの建築物の材料として多くの砂利がこうした鉄道によって運ばれました。例えば現在の東急田園都市線（旧玉川電気鉄道）なども、河川の砂利運搬の目的

で建設された鉄道です。ちなみに、多摩鉄道で輸送する砂利の採取場は、現在の競艇場前駅だったそうです。

その後、大正8（1919）年に常久（現在の競艇場前駅）へ延伸し、大正11（1922）年には是政駅まで開通しています。そして昭和2（1927）年に旧西武鉄道に合併されました。合併当初の路線名は多摩線。以降も、是政線、武蔵境線と名称変更を重ね、現在の多摩川線となりました。多摩川線が西武線のどこの駅とも接続していない理由には、成り立ちにこうした経緯があるからなのです。

砂利輸送鉄道から旅客鉄道へ 地域密着型の小さな路線

定義はありませんが、砂利の貨物輸送を目的として敷設された鉄道は、砂利輸送鉄道、あるいは砂利鉄道と呼ばれました。これが首都圏で鉄道が新たに建設されるきっかけとなったわけですが、昭和に入ってから砂利の採取による河川への影響が問題視されてくると、採掘規制が始まり、廃線に追い込まれる砂利鉄道も少なくなかったと言います。

その中で多摩川線が旅客鉄道に転向・存続していったのは、大正12（1923）年に開園した多磨墓地の最寄り駅としての役割、西武鉄道が進めた沿線の宅地開発による利用者の増加、昭和29（1954）年の府中競艇場（現在の多摩川競艇場）の開場、東京外国語大学の建設などがその理由として挙げられます。過去2年間の各駅の乗降人数を見ると、ほとんど変化がありません。これは安定した沿線利用者があることの裏付けであり、「地域密着型の鉄道」と言われるゆえんでもあります。また、6駅の中では、JR中央線との接続駅である武蔵境駅の乗降者数もとても多くなっています。

JR中央線武蔵境駅の 高架化により 多摩川線もリニューアル

中央線武蔵境駅は、平成15（2003）年から平成21（2009）年にかけて高架化工事を行いリニューアルしました。これによって多摩川線武蔵境駅も高架線となり、島式ホーム（プラットホーム）の両側が線路に接しているもの1面2線で、改札口も中央線とは別となりました。か



武蔵境駅に止まる多摩川線の電車。(昭和37(1962)年7月22日撮影：荻原二郎/『写真で見る西武鉄道100年』株式会社ネコ・パブリッシング刊より)



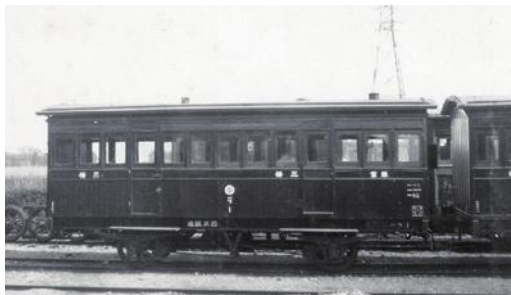
中央線下りホームを共用していた頃の武蔵境駅。是政方面を見る。(昭和40(1965)年2月25日撮影)



多摩川線のりばの案内があるホーム中程の建物は、西武鉄道が使用していた。(昭和40(1965)年2月25日撮影)



西武鉄道多摩川線と伊豆箱根鉄道創業100周年コラボレーションのヘッドマーク付き特別色の車輛。



明治27(1894)年に平岡工場で製造された木造2軸客車であるハフ1形。外開きの客室扉を持つ二重屋根車で、屋根に室内灯の投入口はない。昭和6(1931)年に休車、昭和13(1938)年に廃車となった。(昭和12(1937)年4月18日撮影：荻原二郎/『写真で見る西武鉄道100年』株式会社ネコ・パブリッシング刊より)

つての多摩川線武蔵境駅は、中央線の下りホームの反対側、3番線を多摩川線のホームとして利用。中央線と多摩川線を分ける改札などはなく、乗客は改札口を通らずそのまま乗り換え、降車駅で精算するという形でした。

現在は中央線のホームを降りると連絡改札口があり、そちらを通過して多摩川線へ。ホームには、開業100周年をお祝いした記念のヘッドマークをつけた電車が止まっています(平成29年12月31日まで)。

地域の人たちに感謝を込めて 開業100周年イベントを開催

現在、多摩川線の各駅では開業100周年を記念したイベントを12月31日まで開催しています。

記念事業を手がけた西武鉄道旅客誘致企画担当によれば、各イベント事業は多摩川線で働く現業係員から提案され、「毎日利用されている地域の人たちに喜んでもらえる企画で、100周年をお祝いしたい」というコンセプトで進められたそうです。

す。多摩川線6駅の旧駅舎や車両の画像が入った「記念乗車券」は予想以上に反響が大きく、また、各駅で使用していた改札口の「鉄こん」を6駅分集める「改札鉄でパッチンラリー」は鉄道ファンの間でも話題となりました。

「おはようございます!」。朝の改札口では駅員さんと利用者があいさつを交わす姿を見られます。地域の人たちに愛される鉄道として、次の100年へ向けて走行を続けていきます。